



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第127号

2014.8.15

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。

一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」の名前をつかっています。

も く じ

お知らせ

- ー 観察会日程の変更について
- ー 9月の休館日について
- ー キノコの写真展のご案内

活動報告

- ー ブッポウソウの観察会
- ー 夏休み親子観察会
- ー カワシンジュガイ探検隊
- ー 可愛川の水生生物観察会

観察会案内

- ー 深入山の植物観察会
- ー せどやまの植物観察会
- ー 霧ヶ谷湿原の植生調査（秋）
- ー 霧ヶ谷湿原 秋のいきもの観察会

お し ら せ

● 観察会日程の変更について

観察会の日程が変更になりました。変更後の日程は以下の通りです。詳細については、次号以降の苅尾電波塔、またはホームページにてお知らせします。

サツキマス保全の試み

10月11日（土）→10月13日（月・祝）

● 9月の休館日について

9月23日（火・祝）は、自然館を開館します。翌日の24日（水）が休館日となります。

● キノコの写真展のご案内

「キノコ観察会」の講師でお馴染みの、新谷正信先生（安芸太田在住）による、キノコの写真展が開催されます。ぜひご来展ください。

企画展：きのこの世界 - 林相別にみる森の妖精たち -

期間：2014年9月6日（土）～9月14日（日）

時間：9:00～17:00（最終日は13:00まで）

会場：芸北文化ホール 2階視聴覚室

（広島県山県郡北広島町川小田 75-54）

主催：北広島町立芸北 高原の自然館

（北広島町教育委員会）

後援：広島きのこ同好会

観 察 会 報 告

●ブッポウソウの観察会

開催日時：2014年7月13日（日）9:30

講師：上野吉雄・松田賢

前夜から早朝にかけて強い雨が降り続く中、ブッポウソウの観察会が実施されました。講師は、野鳥の専門家である上野先生、昆虫の専門家である松田先生です。悪天候だったため、5名と少人数の参加者となりましたが、芸北文化ホールに集合し、事前学習を行いました。

ブッポウソウは、東南アジアから夏鳥として日本にやって来て繁殖を行います。越冬地の詳しい場所は不明とされていましたが、追跡装置の進化・軽量化により、少しずつ判明していることを、上野先生が解説されました。

続いて松田先生から、ブッポウソウが雛に与える餌についてお話いただきました。親鳥は、夜明け前から活動を開始し、日没後も餌を与えているそうです。資料を見ると、夕方以降の給餌回数が特に多いことが、特徴的でした。次に、巣箱の中の様子や死亡した雛の胃の内容物など、写真での紹介がありました。巣箱や胃の中からは、コガネムシ類の他に、石やプラスチック類なども確認され、これらは甲虫類の硬い外殻をすり潰す臼の役割を果たしているそうです。また、ブッポウソウの他に、アオバズク、スズメ、シジュウカラ、ムササビなどが営巣している写真の紹介もあり、様々な動物が巣箱を利用していることが分かりました。

事前学習の後は、ブッポウソウの観察を行いました。観察場所の公共施設まで車で移動します。雨が心配されましたが、事前学習の間に降り止み、落ち着いて観察ができました。早朝に活動ができなかった分を取り戻すかのように、頻繁に雛に給餌をしたり、電線の上から昆虫を探している姿や、羽を下に伸ばして、濡れた体を休めている様子などを、双眼鏡とフィールドスコープを使ってじっくりと観察しました。参加者は、観察の合間に講師に質問したり、一瞬の給餌を見逃さないように声を掛け合うなど、和やかな雰囲気です、1時間程観察を続けました。

9月頃に、東南アジアへと渡るブッポウソウを、来年もこの場所で姿を見られるようお願いながら、ブッポウソウの観察会を終えました。

（ありみつますかず）



今回の講師の、松田先生と上野先生。



ブッポウソウの仲間に、アカショウビンやカワセミ、ハチクイ等がいる。と説明があった。



ブッポウソウが餌とする昆虫の標本を、松田先生が用意された。



電線に止まるブッポウソウ。辺りを見渡し、餌となる昆虫を探している。



付近の屋根に止まるセグロセキレイ。他にもカワヒワを確認した。



離れた場所からそっと観察する。



給餌を終え、巣箱から飛び立つ。橙色のくちばしと、翼の白い部分がよく目立つ。



雛に給餌を行う親鳥。

【みなさんの印象に残った物】

「巣箱をよく使うブッポウソウを見れた」
「ブッポウソウが羽を乾かしていたところ」
「何度も巣箱へ行き来する親鳥の姿」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「初めて見ることでできてよかった」「思ったより多く巣箱に出入りしていた」「天候が心配でしたが、早めに雨が上がり、しっかりと観察できました」

観 察 会 報 告

●夏休み親子観察会

開催日時：2014年7月21日（月・祝）9:30

講師：岩見潤治・佐久間智子・内藤順一・松田賢

夏休みのお楽しみ、霧ヶ谷湿原での親子観察会です。岩見先生、松田先生、内藤先生、佐久間先生の4名が講師で、実施場所は霧ヶ谷湿原の一番上の堰です。

最初に注意事項などを聞いて、親子が班になり川の中で採取が始めます。

岩見先生から「こんにちば採取法」という方法の説明があり、どうすればいきものが網に入ってくるのかをわかりやすく実演してくださいました。

また、川の中は「はだしで入らない・走らない・ひざより深いところに入らない」という3つの約束もしました。上流と下流の班にわかれます。網係と石をめくる係、バケツをもっておく係と順番に係をこなしながら、大人も子どもも夢中でいきものを探しました。約30分間採取を行い、その後種類ごとの分類をしました。

講師の先生方に水生昆虫の詳しい解説をしていただき、名前を覚えたり、生態を教えていただいたあとは、水槽にいきものを移し、小さな水族館を作ってじっくりと観察しました。

また川の環境についてのお話もありました。そこでは「川の環境のために、自分たちがすることは何だろう？」と考える時間となりました。紙コップを使って作った生物多様性タワーも印象的でした。

上流部と下流部のいきものの種類数もほとんど変わらないように感じました。これは、霧ヶ谷湿原の湿地化がさらに進んでいるととらえていいのではないかと、というお話も講師からありました。観察したいいきものは、身近に見る事ができるタカハヤやサワガニの他、ヘビトンボ・ムカシトンボのヤゴなど、なかなか見れないもののしっかりと観察しました。

短い時間でしたが、たくさんの小さいいきものを向き合い、生物多様性の大切さや、水辺の楽しみを満喫した親子観察会となりました。

（こうのやよい）

※今回の観察会は、広島県および北広島町に許可を得て行いました。



岩見先生より、網の使い方などを教えていただいた。



一班ずつ網とバケツを使い、水生昆虫を見つける。



下流の班。



同じ仲間を分けていく作業。



他の班のバットも見学。違いや共通点を見つけていた。



紙コップで多様性タワーを作った。

【みなさんの印象に残った物】

「分類をしたこと」「川に入ってつめたかったこと」「魚や川の虫を採ること」「川の水の美しさ。ムカシトンボをとることができたこと」「見つけたカワトンボの幼虫が食べられて(?)しまったこと」「水がつめたかったこと」「ヘビトンボ」「サワガニをつかまえたこと」「小さな生き物がたくさんいた」「ゲンジボタルの幼虫が見れたこと」「魚を見れてよかった」「水の中でたくさんのいきものをした」「今回初めて参加しました。川で泳ぐことはありますが、こんなにたくさんの生き物を知れてたのしかかったです」「いろいろな種類の生き物があつたからおもしろかったです(4)」「いろいろな虫のしゅるいがあると知らなかったから、そこがおもしろかった(5)」「最後のまとめで生態系について教えていただいたこと」「川の水がとても冷たく、街の川とはちがってびっくりしました。ちいさな生き物がこんなにたくさんいてびっくりです」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「採集した生き物を分類してしらべるのが楽しかったです。勉強になりました」「とても楽しかった！(7)」「とても有意義な時間でした」「親子でたのしい時を過ごせました」「とても楽しめ、勉強になった」「水がつめたくてびっくりした(2)」「今年も楽しく参加することができました」「ヘビトンボの足のとなりに、息をするところがあった」「子ども達が楽しめてよかった」「水がきれい！」「たのしかった一日でした。川をきれいに保ちたいです」「職員のお兄さんが優しくかった」「水がきれいでした」「子どもと自然の中でふれ合うことができ、とても感謝しています」

観 察 会 報 告

●カワシンジュガイ探検隊

開催日時：2014年7月26日（土）9:30

講師：内藤順一

芸北に生息しているカワシンジュガイの観察会を開催しました。カワシンジュガイは北半球の冷温帯を中心に分布している二枚貝で、北広島町は世界の分布のうち最も南にある生息地「分布南限」です。講師は、NPO 法人西中国山地自然史研究会の内藤順一先生です。内藤先生は、北広島町のカワシンジュガイを研究して、保護増殖の方法を発見されました。また、広島県のカワシンジュガイ保護推進員も務めておられます。

現地に出かける前に、芸北文化ホールでカワシンジュガイについてのお話を聞きました。分布の様子や研究の経緯、そして、中国地方で次々に絶滅していったことなども聞きました。カワシンジュガイは北広島町の天然記念物であり、広島県の指定希少野生生物にも指定されていますが、広域的に見ても芸北の個体群が重要であることがよく分かりました。講座の最後には、アブラボテがカワシンジュガイに産卵する瞬間をビデオで見せて頂きました。アマゴ、カワシンジュガイ、アブラボテと、生物同士がつながっていることが実感できました。

講座の後は、実際に生息地に行つて観察をしました。1m程度のとても狭い水路を、わずか10mほど順番に歩き、箱メガネを使って観察しました。わずかな範囲に、とても多くの貝がいることが分かりました。また、講座で見た写真どおりに「砂の上に立って」いることも観察できました。

生息地を観察した後は、下流の滝山川に移動しました。この場所は、かつてはカワシンジュガイが生息していた場所で、生息地がある支流と接続する本流部分です。1990年代に保護の取組をしたことで、もしかしたら個体群が回復しているかもしれないと期待されています。

全員が2人組に分かれて、網ですくったり川底を覗いたりして観察しました。ドジョウやヤゴと一緒に、多くのアブラボテも捕獲できましたが、カワシンジュガイは見つかりませんでした。アブラボテが繁殖するにはカワシンジュガイが必要なので、カワシンジュガイがいても

良さそうなものですが、今回も残念ながら生息は確認できませんでした。

今回の観察では、カワシンジュガイの生息状況を確認し、川の生物を採取・観察しました。本流では外鰓の残るイモリの幼生も捕獲され、みなさん関心を持って見て戴きました。カワシンジュガイの分布拡大、とはなりませんでしたが、生息地が残され、川の環境が保全されれば、いつの日か、きっと生息地は広がることでしょう。[しらかわかつのぶ]



川に入る前に、芸北文化ホールで事前学習。



川が狭いので順番に見学した。



わずかな範囲で、何カ所かに見られた。



最後に、みんなが採集した生きものの観察とまとめをした。



箱メガネで覗いた様子。

【みなさんの印象に残った物】

「カワシンジュガイを見れた事です」「川での採集」「きれいな浅い川にたくさんの生き物がいたこと」「子供達の笑顔」「カワシンジュガイとアブラボテを見れたこと」「カワシンジュガイを初めて見た事です」「川に入って意外と簡単に生物をつかまえる事ができた」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「自然な環境の中で、いろんな生物を大切に保護できたらいいなと思います」「非日常でも楽しかったです」「大自然の中、気持ちよく過ごせました」「久しぶりに子供の頃の事を思い出した」「楽しい1日を過ごせました」「勉強になりました。ありがとうございました。大変良かったです」「皆様が時間を守られた事です」



場所を移してカワシンジュガイ搜索

観 察 会 報 告

●可愛川の水生生物観察会

開催日時：2014年8月3日（日）13:00

講師：内藤順一

この観察会は毎年天候には恵まれるのですが、今回は残念ながら台風12号の影響で雨となってしまいました。前日からの降雨で、増水と水の濁りがあったため、川には入らない観察会となりました。

その分しっかり室内での学習をしました。

講師の内藤先生から、オオサンショウウオの生態について、分類や分布について学びました。内藤先生からの「オオサンショウウオについて知っている事は？」という問いかけに参加者には、「夏に500個くらい卵を産むらしいと本で読みました」「半分に体がさけても死ぬことはないほどの生命力がある」「生きた化石」という意見が出ました。また、内藤先生が「これは何かわかるかな？葉っぱをちぎってにおってごらん」とサンショウの葉をみんなにまわしてくれました。このサンショウの匂いがするということで、「サンショウウオ」の名前の由来となっていると教えていただきました。子供たちは「独特の匂いがする！」といいながら、少しだけオオサンショウウオのイメージがわいたようです。

この後も、シーボルトにまつわる話、広島県での分布、体の特長、繁殖活動など、写真や図をみながらの詳しい解説がありました。

オオサンショウウオの食性の調査のお話の中で、白菜1株をまるのみしていた写真にはみんな驚いていました。

内藤先生が撮影された動画も見せていただきました。オオサンショウウオのオス（ヌシ）が巣で卵を守る様子や、水面に吻端（ふんたん）を出して息継ぎをする様子など、とても貴重な映像を見て、子供たちからは歓声があがっていました。

最後に、オオサンショウウオの生息地である可愛川の農業堰を見に行く事にしました。

幸運なことに、観察会の講師の補助を務めてくださった奥山さん、西村さんのおかげで、オオサンショウウオ3個体を観察することができました（許可済）。

可愛らしい肢の指を見たり、ぬるつとした皮

膚の感触を確かめたりと、観察会ならではの体験を満喫しました。この3個体は新入りだったので、マイクロチップを挿入しました。注射器を挿入した時、白い毒液を体から出しました。その匂いが、室内講義時に確かめた山椒の葉のにおいに似ていることも確認しました。

オオサンショウウオを実際に観察し、生態についてもしっかり学び、貴重な生き物であることがわかった楽しい観察会となりました。

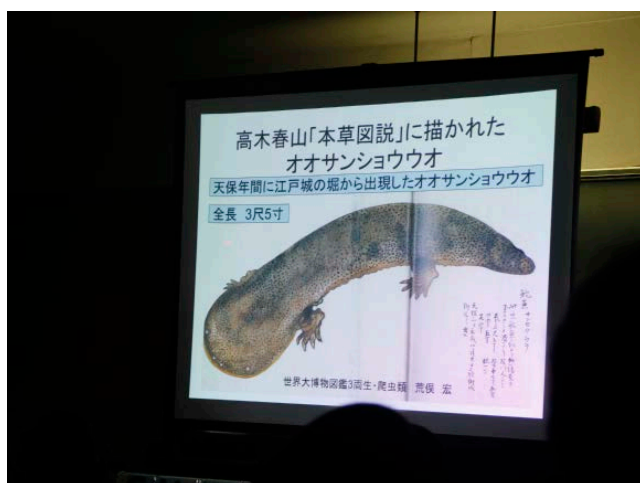
（こうのやよい）



最初にオオサンショウウオの生態について、スライドを見ながら学んだ。



サンショウの葉のにおいを嗅いだ。



江戸時代の文献にオオサンショウウオが！



増水と濁りにより、川に入る事は中止した。



おそるおそる近寄ってみる子ども達。

【みなさんの印象に残った物】

「オオサンショウウオをさわったこと (9)」
「中国産のオオサンショウウオの話. オオサンショウウオのにおいとサンショウのにおい」「オオサンショウウオを見たこと (2)」
「オオサンショウウオの大きさに驚きました」「子供達の実験」「実際に触って、におったこと」「今年もオオサンショウウオが見れて感激」

【参加したみなさんの感想 (抜粋)】

「楽しかった (7)」
「さわったこと」「川に入れなかった」「あっという間の時間でした」「オオサンショウウオはすごく大きかった」「専門に活動されている方々に話を聞けたので良かった」「オオサンショウウオを身近に感じることができた」「雨で川に入れなかったので残念です」「雨が残念」「大人、子供共に良い経験をしました。次回また同じようなイベントがあれば参加したいです」「初めてオオサンショウウオに触れるという体験ができ良かった。多くの人に体験してもらいたいと思う」「河川の両生類のドンという感じです」



マイクロチップを埋めた時に出た白い液の匂いを体験中。

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳

作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

.....

●深入山の植物観察会

開催日時：2014年8月30日（土）9:30
集合場所：いこいの村ひろしま 研修室
講師：大竹邦暁・佐久間智子・和田秀次
準備：基本セット、弁当
定員数：40名
参加費：一般=300円、賛助会員=100円
正会員・中学生以下=無料

去年より1ヶ月早い深入山での植物観察会です。毎年山焼きによって草原が維持されている深入山と雲月山では、植生の違いはあるのでしょうか。深入山の成り立ちや、植物についての座学を行った後、現地を観察します。頂上で昼食となりますので、お弁当をご準備下さい。

●せどやまの植物観察会

開催日時：2014年9月15日（月・祝）9:30
集合場所：芸北文化ホール
講師：佐久間智子・中島康弘
準備：基本セット
定員数：30名
参加費：一般=300円、賛助会員=100円
正会員・中学生以下=無料

せどやま（家の裏山）や田んぼの周りを歩きながら、身近な場所に生育する植物を観察します。座学を行ったあと現地向かい、林の中や林の縁、道ばたや田んぼの畔などをゆつくりと観察します。

●霧ヶ谷湿原の植生調査（秋）

開催日時：2014年9月20日（土）9:30
集合場所：高原の自然館
講師：大竹邦暁・佐久間智子・白川勝信
準備：作業セット
定員数：30名
参加費：無料

夏に続いて、秋も植生調査を行います。調査を続けることで、湿原がどのように変化しているかを知る大切なデータとなります。講師の先生から植物の特徴を解説していただけるので、楽しみながら調査ができます。初めての方もお気軽にご参加ください。

●霧ヶ谷湿原 秋のいきもの観察会

開催日時：2014年9月27日（土）9:30
集合場所：高原の自然館
講師：岩見潤治・大竹邦暁・松田賢・和田秀次
準備：基本セット
※雨具は雨合羽をご用意下さい（傘は不可）
定員数：30名
参加費：無料

涼しくなり始めた霧ヶ谷湿原では、どんな動植物が見られるのでしょうか。マアザミやアケボノソウ、赤トンボの仲間やカンタンなど、秋を彩る昆虫や植物を、講師の先生と一緒に、ゆつくりと歩きながら観察してみましよう。

梅雨が明けましたが、台風の到来によりお盆前は雨が続きました。八幡高原では、トモエソウやコオニユリ、マツムシソウなど、夏の盛りと、秋の訪れを感じられる花が咲いています。また、8月の初めには、千町原の保全活動が実施され、低木の伐採や外来植物の駆除を行いました。多数の方にご参加いただき、誠にありがとうございました。（ありみつ）

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先（ご意見・ご感想もお待ちしています）

高原の自然館（こうげんのしぜんかん）

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1
tel. & fax : 0826-36-2008
<http://shizenkan.info/>
staff@shizenkan.info